

いわゆる運動不足病のスクリーニングを

目的とした容積脈波波形の検討

健康体育学科 小野寺 昇 宮地 元彦

指尖容積脈波は、血液循環動態をあらわす毛細血管血液含有量の時間的推移を反映する。一次または、二次微分してえられる速度脈波あるいは、加速度脈波は、その指標となりえる。運動不足による血管系の動態変化を指尖容積脈波

を用いて明らかにした。電気回路シミュレート実験より指尖速度脈波々形は、動脈血液速度波形に反映することを示し、指数化により、スクリーニングに活用可能であることを示した。

小児腎疾患の蛋白所要量に関する検討

— ネフローゼ症候群 —

臨床栄養学科 寺本 房子 小林嘉一郎 守田 哲朗

ネフローゼ症候群患児について、摂取エネルギー量と蛋白質量が体重やNバランスに及ぼす影響を検討した。

血中アルブミン濃度とNバランスには正の相関があったが、一日あたりの体重増加とNバランスには相関はみられなかった。Nバランスは栄養状態を反映していたが、ステロイド療法中

のネフローゼ症候群では体重増加にはかかわっていなかったことから体重増加の主因は脂肪量の増加と考えられた。また微小変化群では、所要量以上の蛋白質の過剰分は尿中へ尿素として排泄され、蛋白質はほぼ所要量でよいと思われた。

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会

第2回 研究集会プログラム

平成4年6月3日

1. 誤り訂正符号の通信への応用

医療情報学科 格和 勝利

2. 義務教育における福祉教育の実態調査及び福祉教育カリキュラムの開発

— 経過報告 —

医療福祉学科 飯田 精一 小田 憲三 横山 桂子 野上 文夫 竹内 一夫 田口 豊郁

3. 視覚刺激に関する誘発磁界の研究

感覚矯正学科 川島 辛夫 深井小久子 早川 友恵 寺尾 章

4. 環境としての福祉

(内なる環境としての主体性)

医療福祉学科 関谷 真

誤り訂正符号の通信への応用

医療情報学科 格和 勝利

誤り訂正符号と多値変調の組み合わせである符号化多値変調方式を、BCH (15, 5) 符号と8相 PSK で構成し、移動体通信路に適用した場合のビット誤り率特性を計算機シミュレーション

によって求めた。その結果、符号を硬判定復号した場合でも非符号化 BPSK に対して、ビット誤り率 10^{-4} (BER = 10^{-4}) で 10 dB 以上の電力利得が得られることが確認できた。

義務教育における福祉教育の実態調査及び

福祉教育カリキュラムの開発 — 経過報告 —

医療福祉学科 飯田 精一 小田 憲三 横山 桂子 野上 文夫 竹内 一夫 田口 豊郁

我が国がこれから迎えようとする超高齢化社会を国民全体で担っていくためには、幼少期からの継続した福祉教育、学習の機会が不可欠である。本研究はそのため、全国でなされている福祉教育の実態調査と、そこで使用されている

資料の収集から、我が国における福祉教育の実態を分析し、来るべき超高齢化社会を担う人づくりとしての福祉教育カリキュラムのあり方をさぐることを目的とした。今回はその資料と調査の分析結果を報告した。

視覚刺激に関連する誘発磁界の研究

感覚矯正学科 川島 幸夫 深井小久子 早川 友恵 寺尾 章

視覚誘発磁界を臨床応用するために環境磁界を経時的に検討した結果、上下方向の磁界が水平方向の磁界より大きかったがその日内変動は乏しかった。得られたノイズは加算平均処理により低減した。閃光刺激による後頭領域の誘発

磁波の主要分(平均潜時55.57, 97.42, 143.36, 202.16, 277.66 msec を記録する事が可能であった。平均潜時55.57 msec の陽性成分(磁界 Source)は誘発脳波より再現性が良好であった。

環境としての福祉

(内なる環境としての主体性)

医療福祉学科 関谷 真

自立行動は自分のできることは自分ですということである。一般に、自立行動が主体的行動の指標とされる。しかし、障害者にとって、その障害の程度によっては条件的にそれが不可能なこともある。

しかし、できるかぎり自立性を獲得する方向に人を支援する方法があるとすれば、一般人

の随意行動が熟練行動として日常スムーズに発現するのは、随意的プログラム行動として神経行動学で研究される分野の問題と見做せる。

そこから、リハビリテーションの手法は障害者の心身両面の主体性獲得に向けた内容に基礎づけられるように考える。